

経営目標 教育目標	【学校経営目標】 全教職員が、主体的組織的に学校教育目標の達成に向かう学校づくり	めざす 生徒像	社会に貢献できる資質能力を身につけた生徒 ・「夢・実現」に向けて主体的に学び挑戦する生徒 ・郷土を愛し、世界に目を向ける生徒 ・神石高原中学校生徒の心得が実践できる生徒
	【学校教育目標】 未来を切り拓く生徒の育成		

中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成の方策 (具体的な取組内容)	評価項目【指標・目標】	時期	自己評価			改善方策	担当者	学校関係者評価				
						達成率	評価	達成状況			評価			コメント	
											イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的な学習を実現し、学力の向上を図る (自ら学ぶこい子)	1	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着、課題設定と振り返りの充実を図る。 授業が「わかる」につながる家庭学習の提示。(自学自習ノートの活用と学習サイクルの定着を図る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ①標準学力調査において結果を出している【同質集団における標準学力調査の全国平均を超える教科15教科中8教科以上】 ②家庭学習(宿題)は授業に役立った。 ③自学自習ノートの提出率90%以上【効果的な活用ができた生徒の割合60%以上】 	中間	②92.5% ③100%	B	<ul style="list-style-type: none"> ①未実施 ②「宿題が授業に役立っていますか」肯定的解答50/54人(92.5%) ③「自学自習ノートを毎日提出している」肯定的解答51/54人(94.4%) ④「自学自習ノートを効果的に活用している」肯定的解答43/54人(79.6%) 	効果的に活用できているノートや、効果的な姿勢が見られたノートを教員が選り、掲示をしたり生徒で共有をさせる。また、一人で何をすればよいか迷い適切に活用できていない生徒にはプリントを貼る、ノートにアドバイスをするなどの個別の対応をする。	教務	○			<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ内容をそのままにするのではなく、きちんと振り返り、学んだ知識・技能を活用させる場面を創り出すことが学力の向上につながると思います。 ○自学自習ノートの提出率が90%を超え、家庭学習の習慣化が定着していると感じます。 ○活用度に個人差がありますが、改善方策にある「良い事例の共有」や「個別フォロー」を継続していただき、「やらされる学習」から「自ら学ぶ学習」へ繋がることを期待しています。 	
					最終	92.5%	B	<ul style="list-style-type: none"> ①標準学力調査において、全国平均を超えた教科は7/15教科(87.5%) ②「宿題が授業に役立っていますか」肯定的解答54/60人(90%) ③「自学自習ノートを毎日提出している」肯定的解答54/59人(91.5%) ④「自学自習ノートを効果的に活用している」肯定的解答49/60人(81.7%) (87.5+90+100)/3=92.5% 	基本的な知識技能を活用させる場面を積極的に授業の中に仕込む。さらに、活用のさせ方を教員間で共有し、授業改善に努める。また、授業につながる効果的な家庭学習を仕組む。生徒自身が家庭学習と授業とのつながりを感じ、生徒の「できた」「わかった」を引き出せるようにする。						
					中間	98.3%	B	<ul style="list-style-type: none"> ①英検、数検、漢検いずれかを受けた生徒33人/57(57.8%)→96.5%達成 ②3年生のうち、いずれか3級以上合格者8人/16(50%)→100%達成 達成率(96.5+100)÷2=98.3% 	町からの受験料の支援があり、チャレンジする生徒が増えている。しかし、無料だから受けてみるのではなく、自分の実力を試そうと思えるくらい学力が上がるように段階的授業改善をし、授業研修のたびに自分の授業を振り返り、改善を図る。						
	最終	100.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> ①英検、数検、漢検いずれかを受けた生徒40人/57(70.2%)→100%達成 ②3年生のうち、いずれか3級以上合格者8人/16(50%)→100%達成 達成率(100+100)÷2=100% 	町からの受験料の支援により、受けてみようとする生徒は増えた。しかし、実力以上の級に挑戦しようとして、対策をあまりせず受検したりする生徒もいるため、教科担当が生徒の実力を見極めアドバイスをすることや授業で学力をつけていく必要がある。										
	中間	①100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ①「地域のことが好き」肯定的解答50/54人(92.5%) ②「地域のこともっと知りたい」肯定的解答46/54人(85.1%) ③「地域と関わりたい」肯定的解答50/54人(92.5%) 	総合的な学習の時間でのゲストティーチャー招致や地域での体験活動、地域ふれあい行事等地域に出ていく行事を中心に、教育活動全体で、「地域を学ぶ」「地域で学ぶ」「地域のことを考える」を実践する。	教務	○			<ul style="list-style-type: none"> ○地域に興味を持ち、地域のことを知り、地域に関心を持つ生徒の数が増えていくことが、地域に貢献できる生徒を育成することにつながっていると思います。 ○「貢献」という言葉の重さから生徒の考えが萎縮してしまっているのではないかと懸念しています。今度は個人の好きなことややりたいことを地域で実現する方法など、主体性と具体的な手法を学ぶ機会があってもよいのではないかと。 					
	最終	①100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ①「地域のことが好き」肯定的解答55/58人(94.8%) ②「地域のこともっと知りたい」肯定的解答50/58人(86.2%) ③「地域と関わりたい」肯定的解答54/58人(93.1%) 	総合的な学習の時間を軸として、地域のよさを知ることや課題から改善点を見つけて通して、地域のことが好き、地域に貢献したいという気持ちを持つ生徒の育成を継続したい。										
豊かな心	社会に貢献できる生徒を育成する (やさしくあたたかい子)	2	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動を推奨し、貢献機会をつくり、意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を中心としたボランティア活動を実施する。 ②地域貢献の意識が向上している【意識調査における、「地域の方と積極的に交流している」の肯定的評価80%以上】 	中間	①57人中2回以上参加44人。77% ②7月アンケート結果72% 達成率(77+72)÷2=74.5% 74.5%÷80%=93.1%	B	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動の開催時期・内容を検討する。 ②各学年とも、総合的な学習の時間でゲストティーチャー招聘や体験活動等で地域の方と交流しているが、受け身にならざるを得ない。生徒が主体的に関わる場面となるように価値をつけていく必要がある。 	ボランティア活動に参加することで、地域社会への貢献意欲が向上していくことはとても意義あることだと考えています。	生指	○			<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動に参加することで、地域社会への貢献意欲が向上していくことはとても意義あることだと考えています。 ○環境整備に限らず、自分の周りの困りごとを小さなことでも見つけ、解決していくだけでも十分ボランティアとして成り立つのではないだろうか。 ○学校運営協議会としても、学校と密接に連携し、生徒の主体性を引き出すための「場」や「機会」の提供をさらに加速させ生徒の意欲向上に繋がるよう取り組めたいと思います。 	
					最終	98.1%	B	<ul style="list-style-type: none"> ①57人中2回以上参加48人。84% ②12月アンケート結果73% 達成率(84+73)÷2=78.5% 78.5%÷80%=98.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動の開催時期・内容を検討して進める。事前にアナウンスをさらに徹底する。 ②全学年、総合的な学習の時間でゲストティーチャー招聘や体験活動等で地域の方と交流することができた。生徒が考え主体的に関わる活動になるようにする。 						
					中間	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期生徒アンケート「自分にはよいところがある」85%「仲間の意見と自分の意見を比較して考えを深めている」91% 達成率(85+91)÷2=88% 88%÷65%=100%以上 	授業や行事での生徒の活動について、他者からの評価を生徒にフィードバックする場面の日常的な積み重ねを大切にしている。						
	最終	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月アンケート「自分にはよいところがある」73%→100%「仲間の意見と自分の意見を比較して考えを深めている」89%→100% 達成率(100+100)÷2=100% 	他者からの評価を生徒にフィードバックする場面で意図的に仕組む。生徒自身が授業や行事などの活動で事前に目指すゴールの姿を設定し、事後にはどんな力が伸びたのかを資質・能力の視点で振り返る活動をする。										
	働き方	教職員のゆとりとやりがいを高める	3	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化により超過勤務時間を削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修日、定時退校日の設定や、分掌業務等のスリム化を図り業務改善を進める。 	中間	①4~9月 34%削減 100%達成 ②4~9月 12回/20→60.0%達成 達成率(100+60)÷2=80.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> ①4~9月 34%削減 100%達成 ②4~9月 12回/20→60.0%達成 達成率(100+60)÷2=80.0% 	昨年度と比べ全月で超過勤務時間の削減が見られるが、定時退校ができている日は夏季休業中がほとんどで、平常日の達成はなかなかできていない。普段でもできるように業務改善に努める。	総務	○			<ul style="list-style-type: none"> ○先生方が日頃から心身のリフレッシュを図れるよう、「平常日は難しい」で終わらせない一歩踏み込んだ改革を応援しています。 ○勤務時間の削減が着実に進んでいると思います。引き続きの取組をお願いします。 ○他の市町などでも取り入れられている「留守番電話対応」を要望すべきと考えます。
						最終	87.5%	B	<ul style="list-style-type: none"> ①4~1月:14%削減→100%達成。 ②4~1月:15回/20→75%達成 達成率(100+75)÷2=87.5% 	10月以降の超過勤務時間はほぼ削減が見られなかったが、年間を通しては昨年度より削減が見られた。定時退校日は、冬季休業中に1回のみで業務改善とは至らなかった。					
中間						100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ①仕事に対するやりがい14人/14(100%)→100%達成 ②相対できる14人/14(100%)人間関係の構築11人/14(78.5%) 職場の雰囲気13人/14(92.9%) (平均90.5%)→100%達成 達成率(100+100)÷2=100% 	全員が仕事にやりがいを感じている。また、職場の雰囲気もよいと思っている人がほとんどである。今後も、職員同士が気軽にコミュニケーションが取れる雰囲気づくりや人間関係づくりに努める。						
最終		100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ①仕事に対するやりがい15人/15(100%)→100%達成 ②相対できる14人/15(93.3%)人間関係の構築13人/15(86.6%) 職場の雰囲気14人/15(93.3%) (平均91.0%)→100%達成 達成率(100+100)÷2=100% 	全員が仕事にやりがいを感じて業務を遂行している。職場の雰囲気もよいと思っている人がほとんどであるが全員ではないので、全員が良いと思えるように、風通しの良い職場になるよう努めていきたい。										